

世界の叡智を結集して安全な地層処分を目指します

NUMOは地層処分事業の実施主体として地層処分技術の信頼性を最大限に高めるため、国内外の研究開発機関と協力・連携し、技術開発を進めています。

「地層処分」は原子力発電に伴って発生する高レベル放射性廃棄物を、保管・管理し続けるのではなく、人工的なバリアを施したうえで、地下深くの安定した岩盤に埋設して処分する方法です。現時点で最も安全で実現可能な処分方法として世界共通の認識になっています。

安全な地層処分に適した地域を選定するため、先行する諸外国同様にできるだけ多くの地域で調査を受け入れていただけるよう、全国の皆さまに最終処分の問題を一緒に考えていただきたく心よりお願い申し上げます。

全国の皆さまに地層処分事業に関心を持っていただき、社会全体の課題として全国的な議論にも広がるよう、NUMOは透明性のある情報公開とともに全国各地で対話活動に取り組んでまいります。



NWMO(カナダの地層処分実施主体)との共同研究

NWMOの技術者と大阪大学・秋田大学との共同研究の内容について情報交換



人工バリアに使用するオーバーバックの製作技術開発



各国の事業進展や最新技術を踏まえて世界が一丸となって取り組めるように

NUMO技術部職員が放射性廃棄物の処分に関する国際協力を担う機関、OECD/NEA(経済協力開発機構/原子力機関)で従事



SKB(スウェーデンの地層処分実施主体)との共同研究

高レベル放射性廃棄物の埋設方法に関する技術開発

▶ 世界各国で「地層処分」の実現を目指し取り組みを進めています

諸外国では、処分場を建設するための調査に20～30年という非常に長い時間をかけて決定しています。日本を含む他の国々でも、処分地の選定に向けた取り組みが進められています。

